Racing Topics

★中央競馬ニュース　文・谷川善久★

●有馬記念はレガレイラが優勝

12月22日（日）に行われた有馬記念（ＧⅠ）ではレガレイラ（牝３歳／美浦・木村哲也厩舎）が優勝しました。３歳牝馬による有馬記念勝利は1960年のスターロッチ以来64年ぶり２度目で、グレード制が導入された1984年以降では初のこととなります。

●中山大障害はニシノデイジーが優勝

12月21日（土）に行われた中山大障害（Ｊ・ＧⅠ）ではニシノデイジー（牡８歳／美浦・高木登厩舎）が優勝し、２年ぶり２度目の同レース制覇を果たしました。

●横山武史騎手がJRA年間100勝を達成

12月21日（土）の５回中山７日・第１レースではトリリオンボーイが１着となり、同馬に騎乗した横山武史騎手（美浦・鈴木伸尋厩舎）は、本年６人目、自身にとっては４年連続４回目となるＪＲＡ年間100勝を達成しました。

●幸英明騎手がJRA通算1700勝を達成

12月21日（土）の７回京都７日・第６レースではトウタツが１着となり、同馬に騎乗した幸英明騎手（栗東・フリー）は、史上16人目・現役７人目となるＪＲＡ通算1700勝（２万4344戦目）を達成しました。

●西谷誠騎手が単独５位となるJRA障害通算198勝目をあげる

12月22日（日）の７回京都８日・第５レースではマテンロウジョイが１着となり、同馬に騎乗した西谷誠騎手（栗東・中内田充正厩舎）のＪＲＡ障害勝利数が通算198勝となりました。これは林満明元騎手の197勝を抜き、ＪＲＡ史上単独第５位の記録となります。

●長谷川浩大調教師がJRA通算100勝を達成

12月21日（土）の７回京都７日・第11レースとして行われた阪神Ｃ（ＧⅡ）ではナムラクレアが１着となり、同馬を管理する長谷川浩大調教師（栗東）は、現役146人目となるＪＲＡ通算100勝（延べ1386頭目）を達成しました。

●マスクトディーヴァの競走馬登録抹消

2024年サンケイスポーツ杯阪神牝馬Ｓ（ＧⅡ）などの勝ち馬マスクトディーヴァ（牝４歳／栗東・辻野泰之厩舎／ＪＲＡ通算９戦４勝）は、10月19日（土）付で競走馬登録を抹消されました。今後は北海道千歳市の社台ファームで繁殖馬となる予定です。

★地方競馬ニュース　文・宇田川淳★

●ＪＲＡ出身のフォーヴィスム（川崎）が兵庫ゴールドＴ（園田）制覇

兵庫ゴールドトロフィー（ＪｐｎⅢ、12月25日、園田、1400㍍）は、中団から４コーナーで先頭に立った４番人気の川崎所属馬フォーヴィスム（吉原寛人騎手＝金沢、牡６歳、父ドゥラメンテ）が、最後方から追い上げた１番人気の昨年の覇者サンライズホークとの競り合いをハナ差で制しました。逃げた２番人気のエートラックスは５馬身遅れの３着、トップハンデ60㌔のラプタスは11着、ヘリオスは最下位の12着に終わっています。

●フォーマルハウト賞はトサノマイヒメ【各地の主要２歳重賞】

フォーマルハウト賞（12月１日、佐賀、1400㍍、牝馬）は、５番手から４コーナー手前で先頭に立った単勝1.7倍で断然人気の高知からの遠征馬トサノマイヒメ（父ゴールドドリーム）が３馬身差で楽勝。ラブミーチャン記念（11月19日、笠松、1600㍍、牝馬）は、後ろから２頭目という位置から追い上げた４番人気の愛知所属馬エバーシンス（父ホッコータルマエ）がゴール前で差し切り勝ち。ゴールドウィング賞（12月３日、名古屋、1700㍍）は、３番手を進んだカワテンマックス（牡、父ドレフォン）が３、４コーナー中間で抜け出し、単勝1.7倍の支持に応えて無傷の３連勝を達成しています。

●12月29日の東京大賞典（大井）にフォーエバーヤングが登場

東京大賞典（ＧⅠ、12月29日、大井、2000㍍）は、国内無敗の３歳馬フォーエバーヤングが中心、以下昨年の覇者ウシュバテソーロ、ウィルソンテソーロ、グランブリッジ、ラムジェット、クラウンプライド、デルマソトガケの順に有力視されます。

★海外競馬ニュース　文・秋山響★

●2024年は日本調教馬が海外で重賞５勝

今年は日本から過去最多となる延べ101頭（地方所属馬も含む）が海外で出走。Ｇ１での勝利は叶いませんでしたが、フォーエバーヤング（牡３歳、父リアルスティール、栗東・矢作芳人厩舎）がUAEのＧ２UAEダービー（ダート1900㍍）とサウジアラビアのＧ３サウジダービー（ダート1600㍍）、リメイク（牡５歳、父ラニ、栗東・新谷功一厩舎）がサウジアラビアのＧ３リヤドダートスプリントと韓国のＧ３コリアスプリント（ともにダート1200㍍）、そしてクラウンプライド（牡５歳、父リーチザクラウン、栗東・新谷功一厩舎）が韓国のＧ３コリアカップ（ダート1800㍍）を制しました。またフォーエバーヤングはアメリカの３歳王者を決めるＧ１ケンタッキーダービーで勝ち馬からハナ＋ハナ差の３着に入って、日本調教馬としての同レース史上最高着順を記録。秋にはアメリカのダート最強馬決定戦であるＧ１ＢＣクラシックでも３着と健闘しました。